

## 出題範囲の詳細

管理会計検定の種類 受験資格 出題形式	J C M A 1 級合格 論述・口述	1 級 無し 四択・記述	2 級 無し 四択
第 1 章 経営の基本と管理会計	○	○	○
I. 経営とは何か？	○	○	○
1 経営の機能	○	○	○
(1) 事業目的とは	○	○	○
(2) 経営環境を分析し、複数の選択肢の中から意思決定を行う	○	○	○
(3) 経営資源とは	○	○	○
(4) 計画する	○	○	○
(5) 組織のベクトルを合わせる	○	○	○
2 マネジメント・サイクル	○	○	○
(1) 計画の必要性	○	○	○
(2) 統制（点検）	○	○	○
(3) 見直し	○	○	○
II. 経営と管理会計	○	○	○
第 2 章 管理会計を活用するための前提となる経営的知識	○	○	
I. 経営理念と経営ビジョン	○	○	
1 経営理念・経営ビジョンと経営戦略	○	○	
2 経営理念の構成要素	○	○	
(1) 事業の目的意識	○	○	
(2) 価値観	○	○	
3 経営理念の機能	○	○	
4 経営ビジョンの構成要素	○	○	
(1) 定量目標	○	○	
(2) 定性目標	○	○	
5 経営理念・経営ビジョンの徹底	○	○	
II. 経営戦略の理論	○	○	
1 経営戦略とフレームワーク	○	○	
2 経営戦略の構造	○	○	
3 経営環境の分析	○	○	
(1) マクロ環境の分析（PEST分析）	○	○	
(2) 業界構造の分析（5フォース分析）	○	○	
(3) マーケティング環境分析（3C分析）	○	○	
4 全社戦略の考え方	○	○	
(1) P L C（プロダクトライフサイクル）	○	○	
(2) 経験効果	○	○	
(3) P P M（プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント）	○	○	
5 事業戦略の考え方	○	○	
(1) 3つの競争優位性	○	○	
(2) 競争優位性を実現する2つの方法	○	○	
(3) バリューチェーン	○	○	
6 マーケティング・マネジメント	○	○	
(1) マーケティングの定義	○	○	

## 出題範囲の詳細

管理会計検定の種類 受験資格 出題形式	J C M A 1 級合格 論述・口述	1 級 無し 四択・記述	2 級 無し 四択
(2) マーケティング・プロセス	○	○	
7 経営戦略としてのトヨタ生産方式の要点	○	○	
(1) トヨタ生産方式の目的と基本的な考え方	○	○	
(2) J I T (ジャストインタイム)	○	○	
(3) 自動化	○	○	
8 戦略推進のマネジメント	○	○	
(1) バランス・スコアカードの3つの目的	○	○	
(2) 4つの視点と戦略マップ	○	○	
(3) 重要業績評価指標	○	○	
III. 組織論の基礎	○	○	
(1) 組織と組織論	○	○	
(2) 組織構造と管理コスト	○	○	
(3) 集権化と分権化	○	○	
IV. モチベーションの基礎理論	○	○	
(1) モチベーション理論と管理会計の関係	○	○	
(2) モチベーションに関する代表的な理論	○	○	
第3章 管理会計と財務会計の基礎	○	○	○
I. 管理会計と財務会計・税務会計	○	○	○
1 ステークホルダーと会計	○	○	○
(1) 会計の体系	○	○	○
(2) 制度会計とステークホルダー	○	○	○
(3) 管理会計とステークホルダー	○	○	○
2 管理会計の特徴	○	○	○
(1) 業績管理(責任)会計と意思決定会計の関係	○	○	○
(2) 管理会計の未来志向	○	○	○
(3) 業績管理(責任)会計の目的	○	○	○
II. 財務諸表とは	○	○	○
1 財務諸表作成の目的と意義	○	○	○
(1) ステークホルダー(利害関係者)と財務諸表	○	○	○
(2) 財務諸表が示す財務情報	○	○	○
(3) 財務諸表間の相互関係	○	○	○
2 財務諸表分析について	○	○	○
(1) 財務諸表分析の目的	○	○	○
(2) 財務諸表分析の手法	○	○	○
(3) 評価の尺度	○	○	○
(4) 財務諸表分析の限界	○	○	○
第4章 貸借対照表の本質的理解	○	○	○
I. 貸借対照表の基本構造	○	○	○
1 貸借対照表とは	○	○	○
(1) 貸借対照表でわかること	○	○	○
(2) 貸借対照表の右と左	○	○	○

## 出題範囲の詳細

管理会計検定の種類 受験資格 出題形式	J C M A 1 級合格 論述・口述	1 級 無し 四択・記述	2 級 無し 四択
2 貸借対照表の構造	○	○	○
(1) 流動資産と固定資産	○	○	○
(2) 固定資産	○	○	○
(3) 減価償却	○	○	○
(4) リース	○	○	○
(5) 資産性の無い繰延資産	○	○	○
(6) 流動負債と固定負債とを区分する基準	○	○	○
(7) 純資産	○	○	○
II. 運転資本管理と流動性評価	○	○	○
1 正味運転資本 (Net Working Capital)	○	○	○
(1) 正味運転資本とは	○	○	○
(2) 正味運転資本とコスト	○	○	○
2 流動性分析の本来的な意義	○	○	○
(1) 流動性の意味 (短期支払能力ではない本当の意味)	○	○	○
(2) 流動性分析指標	○	○	○
3 キャッシュ管理	○	○	○
(1) キャッシュ管理、3つの目的	○	○	○
(2) キャッシュ管理におけるE O Qモデル	○	○	○
4 所要運転資金	○	○	○
(1) 所要運転資金の意味と計算	○	○	○
(2) 所要運転資金と正常な運転資金	○	○	○
5 売掛債権の管理	○	○	○
(1) 売掛債権回転率と売掛債権回収期間	○	○	○
(2) 掛売による財務への影響	○	○	○
(3) ファクタリング	○	○	○
(4) 売掛債権の評価と貸倒引当金	○	○	○
6 棚卸資産の管理	○	○	○
(1) 棚卸資産回転率と棚卸資産滞留期間	○	○	○
(2) 原材料及び製品の在庫管理	○	○	○
(3) 仕掛品の管理	○	○	○
(4) 棚卸資産の評価 (先入先出、移動平均など)	○	○	○
7 支払債務の管理	○	○	○
(1) 買掛債務回転率と買掛債務支払期間	○	○	○
8 営業サイクルとキャッシュサイクル	○	○	○
(1) 営業サイクル	○	○	○
(2) キャッシュサイクル	○	○	○
9 短期的資金運用	○	○	○
(1) 短期的資金運用の意義 (機会費用とのオフセット)	○	○	○
(2) 短期的資金運用の3つの留意点	○	○	○
(3) 短期的資金運用の方法	○	○	○
III. ソルベンシー(長期支払能力、Solvency)分析	○	○	○

## 出題範囲の詳細

管理会計検定の種類 受験資格 出題形式	J C M A 1 級合格 論述・口述	1 級 無し 四択・記述	2 級 無し 四択
1 ソルベンシーとは何か	○	○	○
(1) ソルベンシーの意味	○	○	○
(2) ソルベンシーと資金提供者	○	○	○
2 ソルベンシー分析	○	○	○
(1) ストック面の指標（資本の構造）	○	○	○
(2) フロー面の指標（フローによる返済能力）	○	○	○
<hr/>			
第5章 損益計算書と収益性分析	○	○	○
I. 損益、収益と費用・原価	○	○	○
1 損益とは	○	○	○
2 収益の認識	○	○	○
3 費用収益対応の原則	○	○	○
4 原価と費用	○	○	○
(1) 費用と発生主義	○	○	○
(2) 原価と費用の違い	○	○	○
II. 損益計算書の構造	○	○	○
1 売上原価	○	○	○
(1) 商業の売上原価の構造	○	○	○
(2) 製造業の売上原価の構造	○	○	○
2 販売費及び一般管理費	○	○	○
(1) 販売費	○	○	○
(2) 一般管理費	○	○	○
3 営業外収益、営業外費用	○	○	○
4 特別利益、特別損失	○	○	○
5 法人税等	○	○	○
III. 収益性分析	○	○	○
1 営業利益と経常利益	○	○	○
2 EBITDAとEBITの意義	○	○	○
3 デュポンモデル	○	○	○
(1) ROA	○	○	○
(2) ROE	○	○	○
<hr/>			
第6章 キャッシュフロー分析	○	○	○
I. キャッシュフロー計算書の基本構造	○	○	○
1 キャッシュフロー計算書とは	○	○	○
2 3つの区分	○	○	○
(1) 営業活動に係るキャッシュフロー	○	○	○
(2) 投資活動に係るキャッシュフロー	○	○	○
(3) 財務活動に係るキャッシュフロー	○	○	○
3 3つのキャッシュフロー間の流れ	○	○	○
4 キャッシュフロー計算書の様式例（間接法）	○	○	○
II. キャッシュフロー分析	○	○	○
1 営業キャッシュフロー	○	○	○

## 出題範囲の詳細

管理会計検定の種類 受験資格 出題形式	J C M A 1 級合格 論述・口述	1 級 無し 四択・記述	2 級 無し 四択
(1) 営業キャッシュフローの構成要素	○	○	○
(2) 営業キャッシュフローの分析	○	○	○
2 投資キャッシュフロー	○	○	○
(1) 投資キャッシュフローの構成要素	○	○	○
(2) 投資キャッシュフロー分析	○	○	○
3 財務キャッシュフロー	○	○	○
(1) 財務キャッシュフローの構成要素	○	○	○
(2) 有利子負債の限度	○	○	○
4 3区分のバランス	○	○	○
第7章 資金調達	○	○	
I. 資金調達の基本	○	○	
1 資金調達の意義	○	○	
(1) 資金調達の本質	○	○	
(2) 資金需要	○	○	
2 資金調達方法の分類	○	○	
(1) 内部金融と外部金融	○	○	
(2) 直接金融と間接金融	○	○	
(3) 調達資金の期間適合性	○	○	
II. エクイティーファイナンス	○	○	
1 エクイティーファイナンスの特徴	○	○	
2 普通株式と優先株式	○	○	
3 配当政策	○	○	
(1) 配当政策の基本的な考え方	○	○	
(2) 株式配当と株式分割	○	○	
4 市場価値評価	○	○	
(1) 株価の経営的な意味	○	○	
(2) 株価に影響与える指標	○	○	
第8章 C V P分析	○	○	○
I. C V P分析の意味	○	○	○
1 C V P分析の意義	○	○	○
2 C V P分析の目的	○	○	○
(1) 利益計画策定	○	○	○
(2) 差額原価収益分析	○	○	○
(3) 損益構造上のリスク評価	○	○	○
(4) セグメント別利益貢献度分析	○	○	○
(5) 販売価格決定	○	○	○
(6) 直接(変動)原価計算	○	○	○
(7) 変動予算による原価管理	○	○	○
(8) スループット会計	○	○	○
3 C V P分析の前提	○	○	○
4 固変分解	○	○	○

## 出題範囲の詳細

管理会計検定の種類 受験資格 出題形式	J C M A 1 級合格 論述・口述	1 級 無し 四択・記述	2 級 無し 四択
(1) 変動費と固定費の定義	○	○	○
(2) 固変分解の必要性	○	○	○
(3) 固変分解の方法	○	○	○
II. 変動損益計算書	○	○	○
1 変動損益計算書の構造	○	○	○
2 損益分岐点図表と限界利益図表	○	○	○
III. 営業量と費用、利益の関係を表す公式	○	○	○
1 利益公式	○	○	○
(1) 利益公式 1 と損益分岐点売上高	○	○	○
(2) 利益公式 2 と損益分岐点販売数量	○	○	○
2 損益におけるリスク評価	○	○	○
(1) 損益におけるリスクとは	○	○	○
(2) 損益分岐点比率と安全余裕率	○	○	○
(3) オペレーティングレバレッジ	○	○	○
3 損益シミュレーション	○	○	○
(1) 損益シミュレーション事例 1	○	○	○
(2) 損益シミュレーション事例 2	○	○	○
第 9 章 原価計算の基本概念と手続き	○	○	○
I. 原価計算の基礎知識	○	○	○
1 原価計算の意味と目的	○	○	○
(1) 原価計算の意味	○	○	○
(2) 原価計算の目的	○	○	○
2 原価の概念	○	○	○
(1) 形態別分類	○	○	○
(2) 製品との関連における分類～直接費と間接費～	○	○	○
(3) 変動費と固定費	○	○	○
(4) 管理可能費と管理不能費	○	○	○
(5) 全部原価計算と直接（変動）原価計算	○	○	○
II. 原価計算手続き	○	○	○
1 個別原価計算と総合原価計算	○	○	○
(1) 個別原価計算と総合原価計算の適用	○	○	○
(2) 個別原価計算手続	○	○	○
(3) 総合原価計算手続	○	○	○
2 製造間接費の配賦計算手続	○	○	○
(1) 部門別計算手続	○	○	○
(2) 活動基準原価計算（ABC）	○	○	○
(3) 連産品原価	○	○	○
3 標準原価計算制度	○	○	○
(1) 標準原価計算の意味	○	○	○
(2) 標準原価計算の目的	○	○	○
(3) 標準原価計算の概要	○	○	○

## 出題範囲の詳細

管理会計検定の種類	J C M A	1 級	2 級
受験資格	1 級合格	無し	無し
出題形式	論述・口述	四択・記述	四択
第 1 0 章 原価情報の活用	○	○	
I. 直接（変動）原価計算	○	○	
1 直接（変動）原価計算とは	○	○	
(1) 直接（変動）原価計算の定義	○	○	
(2) 直接（変動）原価計算の意義	○	○	
2 直接（変動）原価計算による期間損益計算	○	○	
(1) 全部原価計算方式との対比による差異	○	○	
3 セグメント別損益計算と直接（変動）原価計算	○	○	
(1) 内製と外注の判断	○	○	
(2) 限界利益を使った全体最適に判断	○	○	
4 直接（変動）原価計算のメリットのまとめ	○	○	
5 制約理論とスループット会計	○	○	
(1) 制約理論の意味とスループット会計	○	○	
(2) スループット会計の意味	○	○	
II. 価格決定と原価計算	○	○	
1 様々な価格決定方式の例	○	○	
(1) 市場浸透価格政策	○	○	
(2) 上澄み吸収価格政策	○	○	
(3) 消耗品モデル	○	○	
(4) フリーモデル	○	○	
(5) 差別価格政策	○	○	
(6) ライフサイクルに応じた価格政策	○	○	
2 直接（変動）原価計算方式による価格決定の特徴	○	○	
3 CVP分析による価格決定	○	○	
4 全部原価計算方式と直接（変動）原価計算方式による価格決定のメリット	○	○	
5 価格決定における短期的視点と中長期的視点	○	○	
III. 原価差異分析	○	○	
1 原価差異分析の意義	○	○	
2 固定予算差異と変動（弾力的）予算差異	○	○	
(1) 固定予算とは	○	○	
(2) 固定予算差異の限界	○	○	
3 変動（弾力的）予算差異	○	○	
(1) 直接材料費差異	○	○	
(2) 直接労務費差異	○	○	
(3) 製造間接費差異	○	○	
第 1 1 章 計画のための予想技法	○	○	○
I. 相関分析と回帰分析	○	○	○
1 相関分析	○	○	○
(1) 相関係数	○	○	○
(2) 決定係数	○	○	○
2 回帰分析	○	○	○

## 出題範囲の詳細

管理会計検定の種類 受験資格 出題形式	J C M A 1 級合格 論述・口述	1 級 無し 四択・記述	2 級 無し 四択
(1) 単回帰分析	○	○	○
(2) 重回帰分析	○	○	○
II. 経験曲線分析	○	○	○
1 経験曲線の意味	○	○	○
2 経験曲線分析による計算	○	○	○
III. 時系列分析	○	○	○
1 時系列分析の意味	○	○	○
2 移動平均法	○	○	○
(1) 傾向変動を知る	○	○	○
(2) 翌月予測	○	○	○
3 季節変動と月別平均法	○	○	○
IV. 期待値	○	○	○
1 期待値計算の基礎	○	○	○
(1) 期待値の意義	○	○	○
(2) 期待値計算	○	○	○
2 完全情報の価値	○	○	○
(1) 完全情報の意義	○	○	○
(2) 完全情報の価値計算	○	○	○
V. 需要の価格弾力性	○	○	○
第 1 2 章 利益計画・予算編成と分析統制	○	○	○
I. 利益計画・予算とは	○	○	○
1 利益計画と予算の意味	○	○	○
2 予算の機能	○	○	○
(1) 計画機能	○	○	○
(2) 調整機能	○	○	○
(3) 統制機能・動機づけ機能	○	○	○
(4) コミュニケーション機能	○	○	○
3 トップダウン方式とボトムアップ方式	○	○	○
II. 利益計画・予算策定フロー	○	○	○
1 ビジョンから始まる計画プロセス	○	○	○
2 利益計画フロー	○	○	○
(1) 財務目標	○	○	○
(2) 業績予想	○	○	○
(3) ギャップ認識とギャップ解消	○	○	○
(4) 詳細計画	○	○	○
3 予算策定フロー	○	○	○
IV. 分析統制の実務	○	○	○
1 分析統制のサイクル	○	○	○
2 仮説検証主義	○	○	○
(1) 仮説とは何か？何故大事か？	○	○	○
(2) 業績改善ストーリーと仮説検証主義	○	○	○



## 出題範囲の詳細

管理会計検定の種類 受験資格 出題形式	J C M A 1 級合格 論述・口述	1 級 無し 四択・記述	2 級 無し 四択
(3) 経営方針と仮説検証主義	○	○	○
3 分析ツール	○	○	○
(1) ステップ1：大所高所からの分析	○	○	○
(2) ステップ2：更に深堀する分析	○	○	○
第13章 差額原価収益分析	○	○	○
I. 差額原価収益分析の範囲と基本概念	○	○	○
1 差額原価収益分析の意味	○	○	○
(1) 意思決定と差額原価収益分析	○	○	○
(2) 差額原価収益分析の方法	○	○	○
2 差額原価収益分析における重要な原価概念	○	○	○
(1) 差額原価、関連原価、無関連原価と埋没原価	○	○	○
(2) 支出原価と機会原価	○	○	○
(3) 増分収益・増分原価・増分利益とは	○	○	○
(4) 粗利益と増分利益	○	○	○
II. 短期的意思決定の事例	○	○	○
1 短期的判断と中長期的判断	○	○	○
2 内製か購買かの意思決定	○	○	○
3 価格と短期的採算性に関する意思決定	○	○	○
4 前提条件によって異なる差額原価	○	○	○
第14章 事業部の業績評価	○	○	○
I. 業績責任組織	○	○	○
1 集権的組織と分権的組織	○	○	○
2 権限の範囲による組織分類	○	○	○
(1) インベストメントセンター	○	○	○
(2) プロフィットセンター	○	○	○
(3) レベニューセンター	○	○	○
(4) コストセンター	○	○	○
II. 事業部長と事業部の業績測定	○	○	○
1 管理可能性	○	○	○
2 全体最適と部分最適	○	○	○
3 事業部長の業績評価指標	○	○	○
4 事業部の業績評価指標	○	○	○
III. 事業部損益計算上の課題	○	○	○
1 本社費・共通費の配賦	○	○	○
(1) 本社費・共通費配賦の意味と課題	○	○	○
(2) 本社費・共通費配賦の目的	○	○	○
(3) 恣意的配賦の弊害	○	○	○
(4) 本社費・共通費配賦において検討すべき留意点	○	○	○
2 内部振替価格	○	○	○
(1) 内部振替の目的と課題	○	○	○
(2) 内部振替価格設定の各種方法	○	○	○

## 出題範囲の詳細

管理会計検定の種類 受験資格 出題形式	J C M A 1 級合格 論述・口述	1 級 無し 四択・記述	2 級 無し 四択
(3) 内部振替価格決定に影響する要因	○	○	
(4) 内部振替価格決定フロー	○	○	
IV. アメーバ経営	○	○	
1 アメーバ経営とは	○	○	
2 アメーバ経営の仕組み	○	○	
第15章 投資を伴う意思決定	○	○	
I. 投資を伴う意思決定の特徴	○	○	
1 プロジェクトの会計	○	○	
2 適用分野	○	○	
3 投資と機会原価	○	○	
4 定性要因の評価	○	○	
5 時間の価値と複利計算	○	○	
6 現価と終価、年価、時点を合わせること	○	○	
7 系数表	○	○	
II. 経済性計算の方法	○	○	
1 簡単な設備投資の経済性計算設例	○	○	
2 正味現在価値法	○	○	
3 排反案と独立案	○	○	
4 内部利益率法	○	○	
5 収益性指数法	○	○	
6 混合案の評価	○	○	
7 回収期間法	○	○	
III. 割引率	○	○	
1 経済性計算における割引率の意味	○	○	
(1) 機会原価	○	○	
(2) 目標投資利益率	○	○	
2 割引率の決定方法(CAPMを含む)	○	○	
(1) 機会原価からの投資利益率	○	○	
(2) 業界の平均的投資利益率	○	○	
(3) 当社もしくは事業部の平均的投資利益率	○	○	
(4) 加重平均資本コスト (WACC)	○	○	
IV. キャッシュフロー予測	○	○	
1 予想すべきキャッシュフローの全体	○	○	
2 毎期の詳細なキャッシュフロー計算	○	○	
最終章 環境変化と管理会計	2020年11月より対象		
I. 環境対応型のマネジメント	同		
1 環境の変化と経営	同		
2 不確実性が増した今日におけるマネジメントの基本的な考え方	同		
3 脱予算経営	同		
II. 企業に求められる公正さと管理会計の役割	同		
1 頻発する不正と求められる企業倫理	同		

## 出題範囲の詳細

管理会計検定の種類	J C M A	1 級	2 級
受験資格	1 級合格	無し	無し
出題形式	論述・口述	四択・記述	四択
(1) 環境変化と不正		同	
(2) 不正のトライアングルにメスを入れる		同	
2 粉飾決算・不適切会計とその発見		同	
(1) 粉飾決算・不適切会計の意味		同	
(2) 粉飾の典型的な手段と発見のための着眼点		同	
(3) 単純な財務分析だけでは発見しにくい粉飾の方法		同	
III. グローバリゼーション・持続可能性と企業評価		同	
1 資本コスト経営		同	
(1) 資本コスト経営とは何か？		同	
(2) 株価と関係の深い経営指標		同	
(3) 求められるROEの水準		同	
(4) ハードルレートを計算するための株主資本コストのフレームワーク		同	
(5) 目標指標としてのWACC		同	
2 持続可能性と企業評価		同	
(1) 持続可能性の意味		同	
(2) SDG s		同	
(3) SDG s の管理会計的な意味		同	
(4) 環境管理会計		同	